

異文化の同世代と交流



11月20日、瀬高中学校の生徒が、市のホストタウン登録相手国であるグアムの中学生たちとオンライン交流を行いました。瀬高中学校からは1年生から3年生の計14人、ホゼ・リオス中学校からは24人が参加しました。それぞれの学校の年間行事や一日の過ごし方、制服などを紹介。お互いの校則やコロナ禍での授業のやり方など多くのやり取りが行われ、さまざまな違いに興味津々な様子でした。



運転時の危険を再認識



11月25日、瀬高自動車学校で、「シルバーセーフティドライブングスクールみやま」が行われました。講習には市内の65歳以上の13人が参加。右折時の車からの死角についての確認や、安全技術が搭載された安全運転サポート車の乗車体験、薄暮や夜間における反射材の効果実験などが行われました。参加者からは「夕暮れ時や夜間の運転では注意して運転したい」といった感想が聞かれました。



人権について考える



11月27日、まいピア高田で、学校法人立花学園立花高等学校校長の齋藤眞人さんによる人権啓発講演会『「いいんだよ」は魔法の言葉』が行われました。当日は138人が参加。子どもたちが安心して個性を發揮するための大人たちのあり方などを学びました。11月18日、講演会に先立ち、道の駅みやまなどで市長や人権擁護委員などが人権週間啓発チラシや標語が載ったグッズを配り、人権尊重を呼びかけました。



薄暗い時間でも安全な通学のために



▲市内の中学1年生全員に贈られました
 11月26日、東山中学校で「反射安全タスキ」の贈呈式が行われました。タスキは、みやま市安全運転運行管理者協議会から市内の中学1年生全員へ贈られました。同協議会は、事業所における交通事故防止活動の促進を図ることを目的とした団体です。例年、夕暮れ・夜間の交通事故防止を図るために中学生に反射安全タスキを贈り、交通事故防止対策の推進に努めています。

2021（令和3）年みやま市10大ニュース

プレミアム付き商品券を電子発行

地域経済の回復を支援するため、市内限定のプレミアム付き商品券を発行。「新しい生活様式」に対応するため、電子商品券を新たに発行し、キャッシュレスを推進しました。

新型コロナウイルスワクチン接種が進む

医療従事者の皆様のご協力のもと、市内の医療機関などでワクチン接種が開始。山川市民センターなどで集団接種、保健医療経営大学に福岡県の広域接種センターが開設されるなど、ワクチン接種が進められました(写真①)。

九州初となる自動運転サービス導入

自動運転サービスが運行されるのは九州初。自動運転車両の愛称は、野口純聖さん(山川中2年)の作品、「オレンジスター号」に決定しました(写真②)。



写真③

オリンピック選手が事前キャンプへ

東京オリンピックに出場する、グアムとミクロネシア連邦の選手団の事前キャンプを受け入れ、感染症対策をとりながら交流を深めました(写真③)。パラリンピックの採火式も行われ、国際理解を深めるきっかけの1つとなりました(写真④)。



「ゼロカーボンシティみやま」を宣言

脱炭素社会の実現に向け、2050年までに温室効果ガス排出量の実質0を目指す「ゼロカーボンシティみやま」を宣言しました。

令和3年8月大雨による災害発生

8月11日から17日まで1000mmを超える記録的な大雨により、市内各所で大きな被害が発生しました。被害総額は約9億円を超え、現在も復旧活動が行われています(写真⑤)。

ワンヘルス推進宣言を表明

ワンヘルスとは、人や動物の健康および環境の健全性はひとつのもの、「健康は一つ」であるという概念のこと。これらを守り、継承するため、市議会で「ワンヘルスの推進」に関する決議が可決され、「ワンヘルス推進宣言」を表明しました(写真⑥)。

新「こみ焼却施設」の試運転がスタート

柳川市と共同で運用する、こみ焼却施設「有明ひまわりセンター」が11月から試運転を開始。3月から本格稼働の予定です(写真⑦)。

総合市民センターの愛称が決定

昨年9月に募集した総合市民センターの愛称が、「MIYAMA(みやまつくす)」に決定しました。同施設は今年の10月に開館し、市の新たな交流拠点として運営します。

横倉義武氏を名誉市民に選定

前日本医師会会長で社会医療法人弘恵会ヨコクラ病院理事長の横倉義武氏を名誉市民に選定しました。

